

Future Earth

持続（未来）可能な地球社会をめざして

安成 哲三

人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 所長
日本学術会議 Future Earth 推進委員会 委員長
Member, Future Earth Scientific Committee

春日 文子

国立医薬品食品衛生研究所安全情報部長
日本学術会議 前副会長
Director, Future Earth Secretariat Global Hub (Japan)

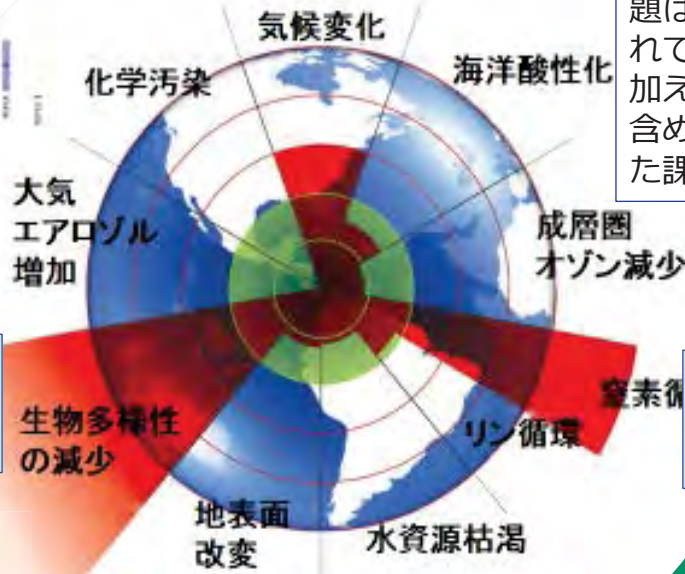
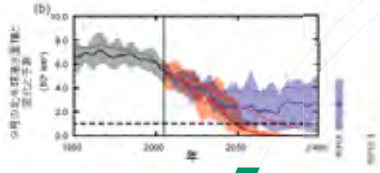
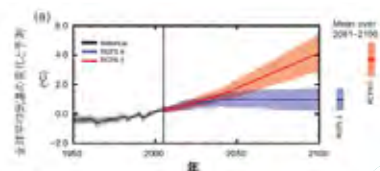
1

地球

気候変化
(地球温暖化) IPCC

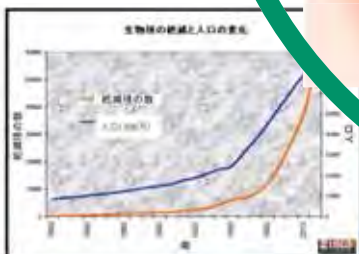
地球システムの限界

これまでには地球環境問題は個別に解決が図られてきたが、それらに加え、経済・社会面を含めて包括的にとらえた課題解決が必要



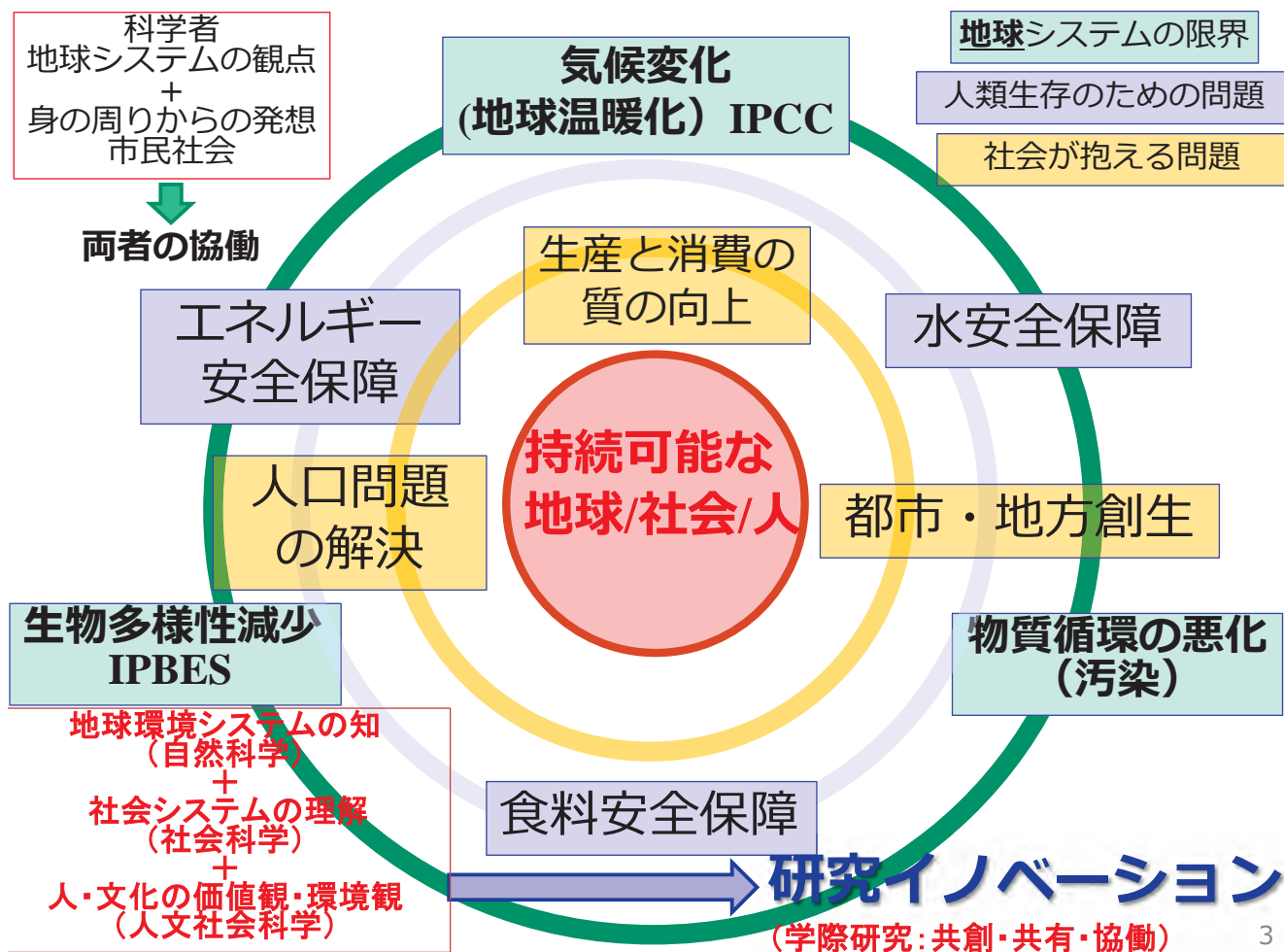
生物多様性
減少 IPBES

物質循環の
悪化(汚染)



Rockström et al., Nature (2009)
Planetary Boundaries

2



3

危機回避のためには イノベーション創出が必要

- 技術革新に加えて、社会的革新や価値観、環境観に関する学術的知見、さらには実務的知見を問題解決へ向けて総合し、制度の革新や市民、企業の行動力を引き出す科学研究イノベーション創出

参考：第3期科学技術基本計画におけるイノベーションの定義

「科学的発見や技術的発明を洞察力と融合し発展させ、新たな社会的価値や経済的価値を生み出す革新」

(科学者コミュニティでは)

- 自然科学関連分野間の連携だけでなく、人文社会科学分野との連携と協働が不可欠

(社会では)

- 省庁や国際機関の垣根を越えた行動の連携、協調が不可欠



- 自然科学、人文社会科学、社会の間で、データ・情報を共有し、経験・考え方・理解を交換し、計画・実施・利用における協働を加速 = 科学研究のあり方の転換

4

地球環境問題の統合的解決と持続可能な地球社会構築 へ向けて国際組織・機関が連携⇒Future Earthを設立



Future Earthの意義と目標

- **科学の統合 Inter-disciplinary**
(人文社会科学・自然科学の連携・統合)
- **社会との智の共創と共有 Trans-disciplinary**
(社会のステークホルダーとの超学際的連携・協働)

を通して

- 地球環境変化のリスクを社会が回避・軽減するための智を提供
- 持続可能な地球社会への転換を促進
- 新しい価値にもとづいて地球の未来をデザイン